

令和6年度 第5回データサイエンスコンテスト実施報告

～日・豪・台の高校生が挑む、データに基づいたトラベルプランの創造～

令和6年7月から10月にかけて、本校主催の「令和6年度 第5回データサイエンスコンテスト」が開催されました。本大会は、日本・オーストラリア・台湾の3か国の高校生がオンラインでチームを組み、オープンデータを活用して日本への調査プランを提案する国際的なコンテストです。

1. コンテストの概要

- テーマ：「育てよう！未来のデータサイエンティスト」
- 参加規模：13チーム（計78名/6名1チーム構成）
- 主催：兵庫「咲いテク」推進委員会（担当：姫路西高校）
- 協力：大和工業（株）、（株）JTB 姫路支店
- 審査員：神戸大学、兵庫県立大学の教授陣等

2. 異文化協働によるデータ分析と課題解決

7月のキックオフイベントから約2か月間、生徒たちは国境を越え、ZoomやSNSを駆使してディスカッションを重ねました。各種オープンデータを基に、日本の自然環境や先端技術が社会に与える影響を分析。それらを実際に確認するための「日本調査プラン」を、英語で練り上げました。言語や時差の壁を越え、データという共通言語を用いて一つの提案を作る過程で、高度なデータ分析力とコミュニケーション能力が養われました。

3. 決勝戦の熱狂（10月20日 兵庫県立大学にて）

書類審査を通過した上位3チームが、兵庫県立大学社会情報科学部キャンパスでの決勝戦に臨みました。

- ハイレベルなプレゼンテーション：膨大なデータを視覚化したグラフや図を用い、日本が抱える課題とプランの意義を論理的に解説。
- 英語による質疑応答：大学教授陣からの鋭い質問に対し、チームメンバーが協力して英語で回答。その堂々とした姿に、観覧席からも大きな拍手が送られました。厳正なる審査の結果、本校が在籍するチームが優勝し、副賞のチーム全員による日本での研修が贈呈されました。その模様は別のPDFをご覧ください。



4. 研修への期待

最優秀賞を獲得したチームには、今後、自らが提案したプランを実際に現地で検証する「実地研修」の機会が与えられます。机上の分析だけでなく、フィールドワークを通じて海外の生徒と共に仮説を検証する、真の科学技術人材へのステップアップが期待されます。

5. 担当校としての総括

本大会を通じて、生徒たちは「データの裏側にある社会の真実」を読み解く力と、多様な価値観を持つ仲間と合意形成を図る難しさ・喜びを学びました。姫路西高校は今後も、国際的な視野を持った次世代のサイエンティスト育成を強力に推進してまいります。